

# 合意 形成

## パートナーシップで 地域を見つめ直す

里地づくりの原点は、住民の好奇心と里地環境へのロマンです。将来に向けた里地づくりのビジョンは、地元を見つめ直すことから始まります。また、農家、住民、行政が一体となった取り組みを始めるためには、住んでいる地域を見つめ直す作業を共に行ない、情報とロマンを共有することが前提となります。

事例 みはまちょう  
愛知県美浜町



ふだん見過していた野仏や野草を地域資源調査で再発見する



外部者の新鮮な目を借り、地元の人が地域を見つめ直す



地域資源調査で見つけた竹炭窯で、竹林の再生、炭焼などの利用が始まった

### 地域資源を見つめ直す

森、川、田畑、草地、生物、自然神、言い伝え、食文化、自給作物、遊び、そして、住民の特技。老若男女、地域全員で見つめ直すと、地域の過去から現在の姿が明らかになり、将来へのビジョンが見えてきます。

### 外部者の視点を活かして

地元を見つめ直す作業は簡単です。白地図と色鉛筆、カメラと記録紙を持って、外部者や専門家、行政担当者とともに、地域資源調査と記録作業を1日づつ行えば、地域資源マップと地域資源カードが完成します。地元の人が見慣れたものでも外部者が驚いたもの・こと、専門家が見てめずらしいものやことは、地域の財産です。

外部者...地域に仕事や生活の基盤を持たない人。隣接地域住民、都市住民、旅行者など、別の文化や生活、違う視点を持つ者のこと。

### それぞれの立場からの住民参加

住民が多数参加する地域資源調査の結果、住民全員が地域資源の理解者となります。各自の関心と地域資源が結びつくと、それぞれの立場からの里地づくりが始まります。この関心の多様性は活性化の原動力となります。

## 農家と住民の役割分担

地域資源調査の範囲には、農家の所有地が多く含まれ、地域資源も農家との関わりがあるものが中心です。地域資源を活かした取り組みは、農家と外部者、専門家等の智恵で生まれていきます。農家の負担を減らし、作業やものの交流を地域住民や外部者、行政が担う形で進めることが大切です。



農家が田畑や山林を開放し、住民とともに野菜を作り、直販る

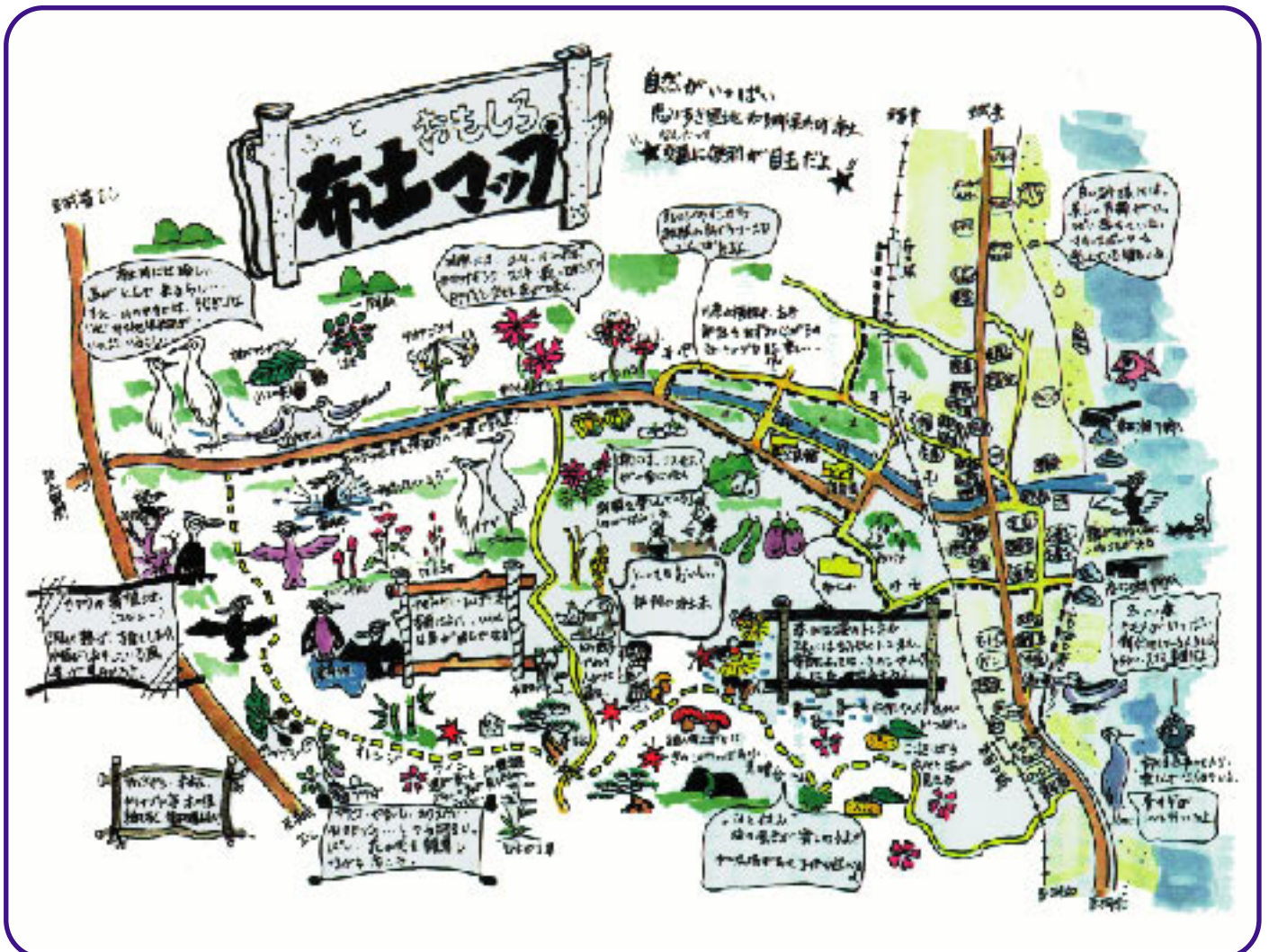
## 行政の役割(注)

必要な情報の提供、資料の作成、活動資材の提供、さらに、ビジョンの実現にむけた手続きや調整という側面で、行政の果たす役割は非常に大きくなります。里地づくりに向けた住民のビジョンをくみ上げ、形にする役割です。美浜町では、地域の特性を活かした独創的、個性的活動に対し、経費の一部を助成しています。



航空写真をもとに地域資源調査を補完する町役場

地域資源調査をもとに、住民が作成した里地紹介の絵地図



(注) 愛知県美浜町「美浜町まちづくり推進事業」(企画開発課)